

# 小豆島町における空き家等の現状と取組みについて

## 空き家の増加

過去に開発された別荘地の廃屋化や、行政区域内の**空き家の増加**。

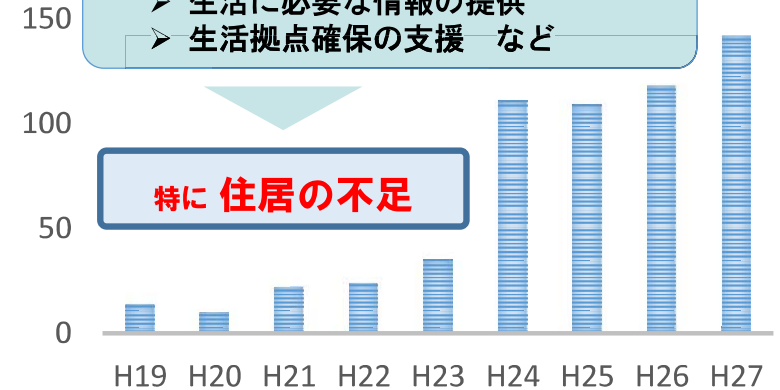
いわゆる  
**空き家：概ね2,200戸**

※ 調査中の数値であって、住宅に限らず、倉庫、車庫など使用されていない建物の総数を示しています。

- ◆ **良好な景観の阻害**
  - 住民、観光客に与える不快感
  - 観光地としてのイメージダウン
- ◆ **安全な生活の阻害**
  - 青少年犯罪等発生の可能性
  - 火災発生危険
- ◆ **生活環境への影響**
  - 瓦などの落下、家屋の倒壊など
  - ごみ不法投棄の助長

## 移住者の増加

- ◆ **求められる移住しやすい環境の整備**
  - 生活に必要な情報の提供
  - 生活拠点確保の支援 など



## 空き家に対する行政の取組み

### 空き家の調査、評価の実施

- ◆ 所有者の特定、所有者の物件管理方針の確認
- ◆ 空き家の老朽度の把握 など

### 空き家情報の整理、管理の実施

- ◆ 空き家データベースの構築、情報更新
- ◆ 新たな空き家の発生把握 など

### 空き家物件の適性指導

- ◆ 所有者への適正指導の実施 など

## 空き家等対策計画の策定

### 空き家の発生抑止、減少対策

- ◆ 老朽危険空き家除却支援事業の活用
- ◆ **空き家物件の積極的な活用の推進**

活用可能な空き家の発掘

空き家バンクへの登録、所有者への支援

店舗、事務所へのリノベーション など

空き家の活用に向けた、新しい企画の立案

連携・支援

住居等の供給

## NPO法人 Totie

- ◆ 民間の創意工夫と、柔軟な発想に期待

# 小豆島の宝物を磨く新たな移住促進に向けて

小豆島町企画振興部企画財政課



人口減少が続くと、小豆島の大切な宝物を次代に引き継いでいくことが難しくなってきます。

## 急速な人口減少

小豆島の人口は、1947年の62,664人をピークに年々減少に転じ、2015年国勢調査の速報値では、28,875人と半世紀前に比べて半数以下になり、今後も、減少傾向は続くと推測されています。

減少の一方で明るい兆しも

## 多くの若者が小豆島へ移住

小豆島町への移住者は、平成24年度からの調査以降、毎年100人超を数え、平成27年度は148名(総人口の約1%)、そのうち20~40代が約68%と若年層が大半を占めています。

移住者増によりニーズが多様化

多様化するニーズ対応、住居確保は喫緊の課題

行政の移住施策を補完する移住者目線による移住促進を展開

### —交流・定住人口の拡大—

人口減少社会に向けて、官民連携による新たな移住促進を展開します。

### —空き家の有効活用—

空き家対策特別措置法に基づき、有効活用に向けた取組みを展開します。

NPOの創意工夫、柔軟な発想をフルに活用

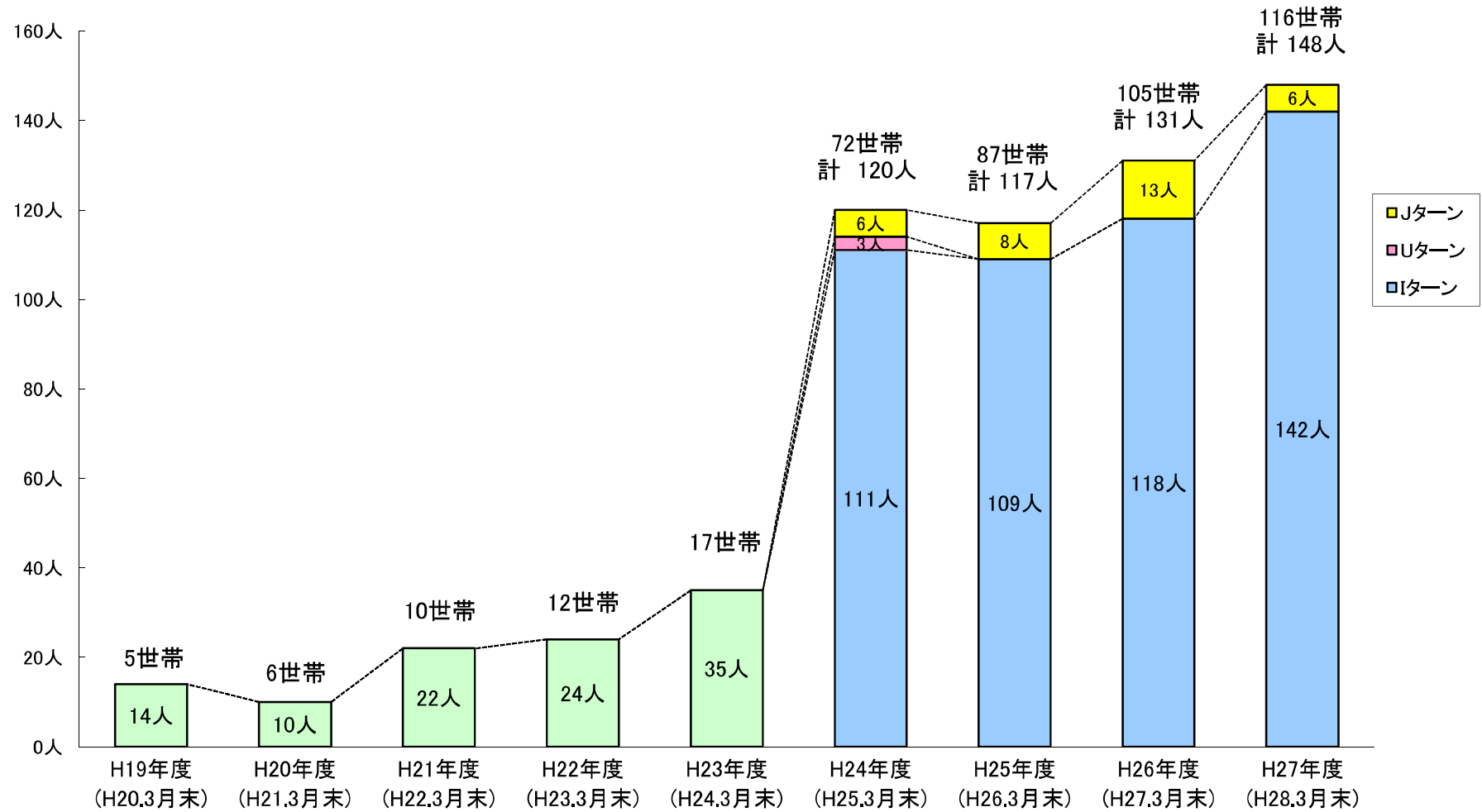
NPO法人  
Totie

連携・支援

小豆島町

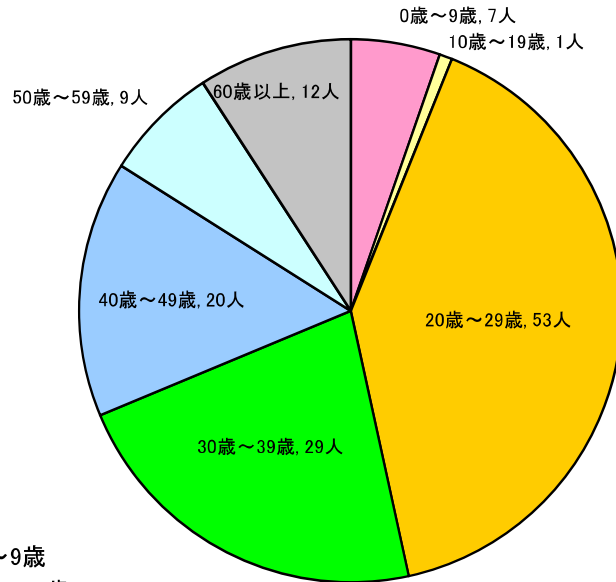
重要施策の担い手として行政との連携を強化

# 小豆島町移住者数の推移(年度別)



# 年齢階層別の移住者数

平成26年度移住者数 **131人**  
(105世帯)



- 0歳～9歳
- 10歳～19歳
- 20歳～29歳
- 30歳～39歳
- 40歳～49歳
- 50歳～59歳
- 60歳以上

平成27年度移住者数 **148人**  
(116世帯)

